

【小学生の部】

◎環境大臣賞 園田 絢奈(そのだ あやな)

「豚が教えてくれたこと」

二年前のある日、両親が突然子豚を飼うと言いだした。

「えっ！豚？」

私は、思わず大きな声のでてしまった。そもそも豚って飼えるのか。それとも食べるために飼うのか。そんな考えが頭をよぎる。

両親の話を聞いていると、どうやらペットとして飼うようだ。

私の豚の印象といえば、頭が悪く、体は太っていて、臭さそうといったマイナスイメージしか持てなかった。

そんなイメージを持ったまま我が家に子豚がやってきた。

子豚を見た瞬間、そのかわいさに私の想像の豚はどこかに行ってしまった。目がくりくりして、長いまつ毛、メロン二つ分の小さな体を私がすわっていると近づいてきて膝の上にちょこんと乗って来るのだ。たちまち私は豚に心を奪われた。

それから、豚との日々の生活で色々な発見があった。まず、豚は頭が良くて、自分の名前を覚えたり、おすわりやお手など犬と同じことが出来る。また、とてもきれい好きで、トイレと寝床をきちんと分けている。その中でもおどろいたのは、鼻の周りからなんとメープルのような甘い香りがただよってくるのだ。寝ている姿もとてもかわいい。

でも、かわいいだけじゃない。困ったことも、たくさんある。たとえば、豚の鼻は力が強く嗅覚が優れている。そのため冷蔵庫から野菜をひっぱり出し全部食べてしまうのだ。いたずら対策は大変で今でも続いている。

我が家では、豚を飼っているが、豚肉料理を食べないわけではない。むしろ多い方かもしれない。

私はお腹がいっぱいだと何も考えず食べ物を残していた。だが、しだいに食べている物の命について考えるようになった。

私たちはあらゆる動植物の命をもらわなければ生きてはいけない。命を貰ったならば無駄にしてはいけないと感じた。食べる前と後の「いただきます」と「ごちそうさま」を心をこめて言うようになった。

それから、私はごはんを残さず食べるようにもなった。

そんなある日、テレビでこんな報道が流れた。「養豚場で豚熱が確認され、五万頭以上の豚が殺処分される」という内容だ。

私はとてもショックを受けた。なぜ、たくさんの豚が殺されなければならないのか。その理由が知りたくて豚熱について調べてみた。

豚熱とは、豚や猪のみがかかる伝染病で感染力・致死率がとても高く、怖い病気だそうだ。しかし、病気になった豚を人間が食べたとしても問題ない。では、なぜ殺処分しなければいけな

いのか私の疑問がますます大きくふくらんだ。

調べていくうちに分かった事は、病気になった豚をそのままにしていると、国内の豚が死んでいき、やがてほろびてしまうこと。それは豚肉を食べる食文化がなくなってしまうことになる。また、ここで殺処分しなければ元気な他の豚も食べられることなく殺処分されてしまうのだ。この豚熱は世界中に広がっていて問題になっている。そして、畜産に関わる全ての人がこの原因によって豚の命を無駄にしたくないという強い気持ちを持っている事も知った。この深刻な問題に私は何が出来るか考えた。

十才の私に今出来る事は、このようになっていることを受け止め、食べ物に対し感謝の気持ちを持ち残さず食べることだと思った。

豚との暮らしがなかったら、豚に起きている問題や動物の命について深く考えずにいたかもしれない。